

雑木林ファンクラブ通信

住所：〒247-0013 横浜市栄区上郷町 1562-1 「横浜自然観察の森」 Tel:045-894-7474

重々多幸かいな

今年の干支は戊子。茂るに通じる戊は草木の成長が絶頂期にある事を表し、孳・滋(じ・し)から派生した子は産む・増えるの意で種子の中の新しい生命の萌し、芽生え芽吹きの状態を示す。それは心身共に成熟の極みの中で還暦を迎え、第二の人生を自ら創り出そうとする団塊世代への自然界からの無言のエールなのかもしれない。

繁茂と誕生を示す戊子年の植物と言えばネズミモチにトウネズミモチ。紫黒色した果実の形がネズミの糞に、葉と木全体がモチノキに似ているところから名付けられたネズミモチは在来種。これに似て一回り大きい唐(中国)原産の外来種がトウネズミモチ。つい先頃までこの二つはモチノキやクロガネモチの一族同門だと思っていた。その樹形はどれも直立分枝型であり、互いによく似た葉は四枚並べて見比べない限り素人には識別し難い。さらに色と形の違いはあるが、何れも野鳥好み(注1)の漿果(液果)で旺盛な発芽・繁殖力を備え鼠算式?に増える。この他人ならぬ他木の空似の前二種はモクセイ科で、後の二種はモチノキ科。横浜自然観察の森にはモクセイ科のネズミモチ(自生&植栽)とトウネズミモチ(植栽)がある。この両者は雑木林勉強会時代から課題“自生在来種及び潜在植生による生態系の維持管理と植栽物や外来種の扱い方”の象徴的存在である。“観察の森本来の自然”からすればトウネズミモチは除去の対象であろうが、開園時には既に生態系に組み込まれていた。そこで“生態系を維持しつつ外来種を在来種に置き換える整理伐と材の活用”の一環として①炭焼き②除間伐材の野積みによる生物の棲家造り③柴垣結い、堆肥の粹作り等を行ってきた。

ZFC式炭焼きが軌道に乗った頃『炭による水質浄化』が話題になり、トウネズミ炭をミズマシの池からゲンジボタルの谷を経て長倉町アメニティに至る数箇所を試験設置したが、元々汚染度の低い園内の水では然程の効果は現われなかったと記憶している。ともあれ鼠に因み“重々多幸かいな”(注2)と日々小さな喜びや幸せを数えて過したい。

朱鷺

注1

アカハラ、キジバト、シロハラ、ヒヨドリ等が丸呑みした漿果の中の種は未消化のまま糞と共に排出され、落ちた場所で発芽する。

注2

数え歌『ちゅう(重二)ちゅう(重二)たこ(蛸)かいな(腕=脚)』の朱鷺流当て字。

平安貴族階級の双六遊びで2が重なることを“重二重二”と二度続けて言った数え方が江戸時代の遊びと共に普及し『重二(じゅうに)』が清音化して『ちゅう』となった由。これを数式化すると $(2+2)+(2+2)=8=$ 蛸の脚となる。

1. 12月の活動報告

- ① 11月24日(土)晴 23名 池ノ上、桜林、草刈、炭材作り、窯詰め
- ② 12月1日(土)晴 25名 9号緑地間伐・雑木除伐(杉8本伐倒、玉切りのうえ野積み 1)
- ③ 2月8日(土)晴 21名 クヌギ林下草刈り、ウグイスの谷竹林の整備
- ④ 12月15日(土)晴 21名 本釜・ドラム釜の改修後初の火入れ、クヌギ林草刈、
午後:運営会、運営会のあとウグイスの谷竹林より除伐竹材搬出
忘年会:森の家泊まり 22名 夕食のみ7名
- ⑤ 12月16日(日)晴 18名 友の会、望年会、餅つき、注連縄作り
- ⑥ 12月22日(土)曇 名 製材、ベンチ作り、小屋の整理



炭焼き窯の補修が完了し、12月15日0900火入れをしました。榊とお神酒を供え、安全を祈りました。本窯は内壁に耐火煉瓦を張り天井を粘土で塗り替え、ドラム缶窯はステンレス缶に交換しました。双方とも熱が逃げなくなったためか、以前より早く温度があがり、順調に焼けたようです。1月12日に炭だし予定、炭の出来具合が楽しみです。
写真:上段左 本窯内部、上段右 火入れ前のドラム缶窯、
下段 左側・ドラム缶窯と右側・本窯の炭焼きの様子(15日0950現在の様子)



左:クヌギ林で曲がったクヌギ2本を伐倒し寝かせておいた。後日、玉伐りのうえ椎茸のホダギに加工する。細い枝は炭材にする予定。
 右:森の家でZFC忘年会。参加者29名、うち泊りは22名。レンジャーも夕食会に参加し楽しい時間を満喫しました。



12月16日、恒例の“友の会望年会”が開かれました。北風の日でしたが、日溜まりのセンター前広場は明るい太陽に照らされて暖かく、60名を超える会員と家族が参集、ゴミハイ、トン汁に餅搗き etc を楽しみました。恒例の注連縄つくりには20名近い人々が挑戦、佐野さんの名調子にあわせ苦労しながらも何とか形にしあげました。

2. 運営会報告（12月 15日 1300～1400）

① 花王『みんなの森の応援団』プロジェクトレポーター学生の修了式の件(片岡さん出席)

ZFCは平成17年度に約50万円の助成を受けチェーンソー、刈払機、鉋や草刈大鎌などを購入、18年度は1年間に亘り活動実績を報告した。今年度は花王がこれらの助成が正しく使用されているかチェックするため学生レポーターをZFCに派遣した。

過日2名の学生(上田、酒向さん)が「日本NPOセンター」の女性1名と来園したが、ZFCの活動につき花王にレポートを提出、12月10日(月)終了式が花王本社で行われる由。ZFCにも招待状が届き出席した。終了式には、花王のSCR担当役員ほか10数名の関係者が出席していた。花王はSCRに積極的で今回は全国で30数箇所の団体に助成金を出しているが、有効に活用されているかを、NPOを起用して厳密にチェックしているとのこと。終了式では、学生レポーター各自が近県8ヶ所の団体を視察した結果を発表し終了証を授与されたが、何名かの学生は保留となり再度レポートを提

出ることとなった。今後、学生たちが調査や体験などのため来園することが多々あると思われるが、ZFCとしてもその趣旨をよく聞いて対応してやることが大切と感じた次第。(片岡さんの報告)

② 当面必要とされる作業につき打合せ:作業の適時を考慮・相談しながら実施する。

・名瀬竹の間伐

・9号緑地の間伐と間伐材の搬送

・園内トウネズミモチの除伐。センターより希望エリアを図面でもらう。

・クヌギ林の雑木除伐、伐倒したクヌギの玉切り搬送・園内の竹林除伐。センターより拵がりすぎた孟宗竹除伐の希望がある。竹材利用を考えると時期が遅れ気味ではあるが、除伐が主目的であれば遅れでも対応可能。

・園内の整備について。現在のZFC管理地区以外の場所について、草刈等センター側より期待する箇所があれば提示されたいと提案。ZFCとしては検討し対応したい。

③ センターより

・北村農園で今年の夏、ZFCが杉材搬出時に玉伐りして作った丸太の椅子の評判がよく感謝している旨、環境創造局に電話があったとのこと。なお、杉伐倒の依頼もある由。

・センターは1月5日(土)より開園。ZFCの活動は12日(土)からとする。1月5日(土)の活動は中止する。

3. 1月活動予定

① 1月12日(土) 七草粥。弁当不要。車来園は困ります。

am 本窯・ドラム缶窯の炭だしほか。

② 1月19日(土) 名瀬北村農園の真竹伐採、杉伐倒。

③ 1月26日(土) 9号緑地間伐・材の搬送、午後・運営会 2月3日(土)作業内容未定、適宜打合せ。

4. その他活動日の変更:

① 1月5日(土)は中止し、活動初日は1月12日(土)になりました。

② ゴロ報を同封します。

一とせに 一度つまるる なずなかな 芭蕉
年に一度七種の草を食べたからと言って、万病からのがれるわけでは
ないでしょうが、昔の人の祈りに思いを致していただきましょうよ。
12日の土曜日はZFCの七草粥。弁当不要、全員集合!

以上